

標準着衣設定のための着衣実態調査(オ/報)関東地区男女大学生の比較

○日本女大 大野静枝・実践女大 飯塚幸子・文化女大 田村照子・東京学大 中橋美智子
大阪大 三平知雄・昭和大 吉田敬一・文化女大 渡辺ミチ

目的 種々な温熱環境下で快適であるための標準的着衣を求めておくことは、自然環境への適応ならびに屋内環境条件設定上必要なことである。われわれは、先づ、その実態を知るために、全国32の大学を対象とした着衣調査を行ってきたが、本報では、その中、関東地区6大学における男女学生の着衣傾向について報告する。

方法 着衣内容を詳細に記入できる調査用紙を男・女別に作成した。調査内容は、被調査者の条件、調査日の室内・戸外の湿湿度(実測)、着用感、被服形態、素材、着衣順位、着衣重量(実測)などである。対象者数は男子学生195名、女子学生280名(20~23才)。調査期間は昭和54~56年の春、夏、秋、冬の四季節である。

結果 (1)温冷感、快適感は四季節、室内、戸外ともに男女ほぼ同傾向を示すが、男子は女子より感覚の回答巾が広い。(2)着衣重量は表に示す如くであり、男子は冬>秋>春>夏となり、女子は冬>春>秋>夏となる。また上・下衣別にみると、男子は、室内、戸外ともに上衣のみで気候調節を行っているのに対し、女子は、上・下衣の両方で調節している。(3)環境気温と着衣重量との間には負の相関があり、室内より戸外で高い相関を示す。着衣重量の分佈は気温低下に従って増大する。(4)男女各々について各季節別の単品被服重量の平均値、標準偏差、服種別着衣の出現率が得られ、代表的着衣パターンが抽出された。

表 季節・室内・戸外別着衣重量 (g)

性別	季節	春(4月)		夏(7月)		秋(10月)		冬(1月)	
		X	S	X	S	X	S	X	S
男子	戸外	2189	±382	1493	±254	2196	±367	3105	±486
	室内	1359	±337	891	±210	1408	±400	1620	±435
女子	戸外	1454	±279	851	±179	1247	±253	2423	±452
	室内	1051	±241	519	±147	841	±215	978	±243